

2 資質・能力を育むための授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～

◇資質・能力を育むために

・調査結果 小学校 国語

中学校 国語

・調査結果 小学校 算数

中学校 数学

◇「非認知能力」と学力との関係性について

資質・能力を育むために ～令和の日本型学校教育に向けて～

これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

平成29年3月に公示された学習指導要領⁵では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて再整理され、これらの資質・能力の3つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。そのための授業改善の一つとして、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現が求められています。そこでは、教師が主役ではなく、学習の主役は児童・生徒です。「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった3つの資質・能力を育成することを目指して授業改善を図っていきます。「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点であり、資質・能力を育むことが授業の目的です。授業を通して、単元を通して、教育課程を通して、子どもたちにどのような姿になってほしいのか、また、担任として、学年として、学校としてどのような力をつけていきたいのか、小さな視点ではなく、大きな視野をもって、子どもたちの成長を願い、よさを育んでいく必要性があります。

5【学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（小学校学習指導要領総則第3・1(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

また、令和3年1月に中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育⁶』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、学習指導要領に示す、誰一人取り残すことのない持続可能な社会の創り手の育成をめざし、そのツールとしてのICTを基盤としながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」がセットで重視されています。児童生徒一人ひとりの興味関心や発達の状況等を踏まえて、それぞれの個性を伸ばし資質・能力を高めつつ、学級集団や学習集団において、子ども同士や子どもと教師、子どもと地域の方々など、多様な他者との関わりを通して、よりよい学びを創り出すために、学び合い、高め合う関係性を大切にできるような授業づくり・学級づくりを目指していきます。

6 社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要があるため、新学習指導要領の着実な実施が重要であるとした。その上で、我が国の学校教育がこれまで果たしてきた役割やその成果を振り返りつつ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とした。ここでは、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指している。

（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）より）

調査結果 中学校 国語

令和 6 年度 調査結果 中学校 [国語]							
分類		区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
				平均正答率（%）	全国との差		
全体			15	56	-2.1	59	58.1
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	54.9	-4.3	60.0	59.2
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	56.9	-2.7	60.3	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	83.0	7.4	74.8	75.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	57.5	-1.3	59.9	58.8
		B 書くこと	2	66.3	1.0	66.8	65.3
		C 読むこと	4	43.8	-4.1	48.5	47.9

令和5年度 調査結果 中学校【国語】							
分類		区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
				平均正答率	全国との差		
全体			15	64	-5.8	70	69.8
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	53.8	-13.7	66.3	67.5
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	58.7	-4.7	63.7	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	71.0	-3.7	71.7	74.7
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	79.9	-2.3	82.5	82.2
		B 書くこと	2	57.8	-5.4	64.6	63.2
		C 読むこと	4	59.3	-4.4	64.2	63.7

調査結果 小学校 算数

令和6年度 調査結果 小学校 [算数]						
分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
			平均正答率（％）	全国との差		
全体		16	58	-5.4	64	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	60.7	-5.3	66.5	66.0
	B 図形	4	60.5	-5.8	66.2	66.3
	C 測定	0				
	C 変化と関係	3	46.5	-5.2	54.5	51.7
	D データの活用	4	56.2	-5.6	62.0	61.8

令和5年度 調査結果 小学校【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
			平均正答率	全国との差		
全体		16	58	−4.5	63.0	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	61.5	−5.8	67.1	67.3
	B 図形	4	46.1	−2.1	50.0	48.2
	C 測定	0				
	C 変化と関係	4	66.6	−4.3	72.3	70.9
	D データの活用	3	59.6	−5.9	65.2	65.5

調査結果 中学校 数学

令和6年度 調査結果 中学校【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
			平均正答率(%)	全国との差		
全体		16	48	-4.5	54	52.5
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	47.8	-3.3	54.3	51.1
	B 図形	3	33.2	-7.1	42.5	40.3
	C 関数	4	57.6	-3.1	61.8	60.7
	D データの活用	4	48.3	-7.2	55.6	55.5

令和5年度 調査結果 中学校【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県（公立） 全国（公立）	
			平均正答率	全国との差		
全体		15	43	-8.0	52	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	53.5	-9.5	65.2	63.0
	B 図形	3	24.4	-8.8	36.1	33.2
	C 関数	4	45.3	-5.9	51.7	51.2
	D データの活用	3	43.6	-4.9	47.4	48.5

【参考】各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意。

〈出典〉令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）

◇ 国語について

ここ数年課題である「言葉の特徴や使い方に関する事項」について分析していきます。

【小学校】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率（％）	全国との差	無解答率（％）
1二 (1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	○			72.1	-3.8	0.0
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる		○		28.1	-15.3	22.0
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す（なげる）			○		63.3	-12.7	11.2
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	○			58.2	-4.1	2.4

【中学校】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率（％）	全国との差	無解答率（％）
3二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	○			50.5	-3.3	0.5
3三	漢字を書く（みちたりた）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる		○		61.8	-7.0	13.2
4一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	○			52.5	-2.4	1.6

問題 小学校 2 三ア・イ

【高山さんの文章】の下線部ア・イを、漢字を使って書き直す。

この問題の趣旨は、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」ことです。第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことと学習指導要領で示されています。

下線のア『きょうぎ』では、『競技』、下線のイ『なげる』では、『投げる』が解答となります。

問題 中学校 3 三

線部のひらがなを漢字に直す。

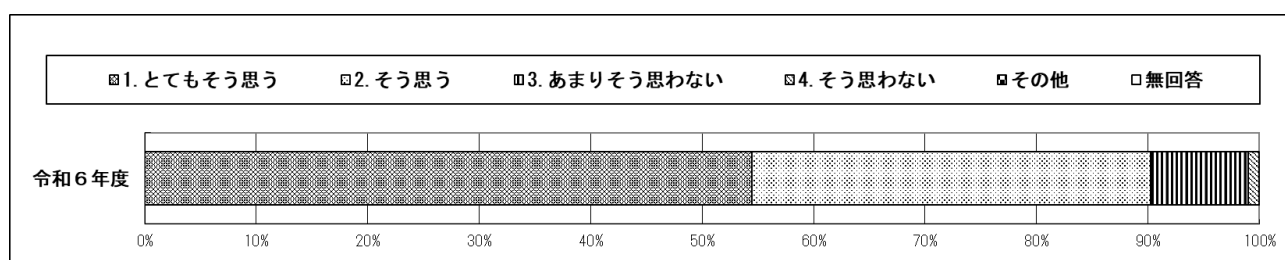
この問題の趣旨は、「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」ことです。中学第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことと学習指導要領で示されています。

線部の『みちたりた』では、『満ち足りた』が解答となります。

寒川町では児童・生徒共に ICT 機器の活用が進んでおり、【児童・生徒質問紙（28-2）「5年生まで（1・2年生のとき）の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（2）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる】から、約90%以上の児童・生徒が、課題等に対して個々に調べ、粘り強く取り組むことができるようになってきています。しかしながら、漢字等が書けるように覚える・記憶するまで取り組めていないことが伺えます。ICT機器の活用により漢字はひらがなを変換すれば出てきますが、漢字を読むことや文や文章の中で使うことができるよう、意図的に手で書き、覚えるような活動の時間を確保する必要があります。

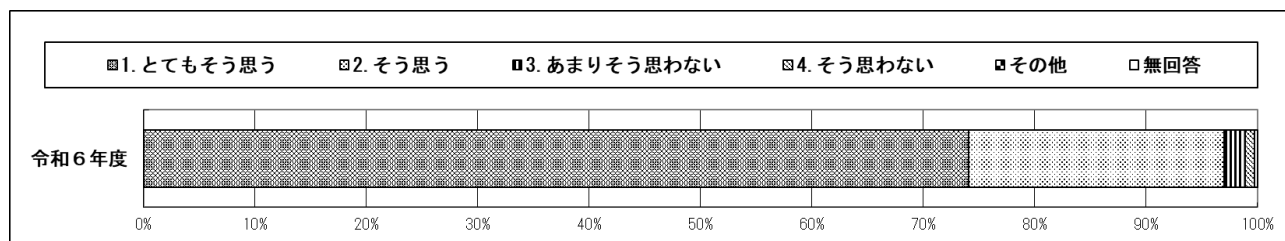
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項											
(28-2)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（2）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	10	その他	無回答
令和6年度	54.5	35.8	8.8	1.0				90.3			0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項											
(28-2)	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。 (2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	10	その他	無回答
令和6年度	74.1	22.9	1.9	0.8				97.0			0.0	0.3



◇ 算数・数学について

近年課題である「データの活用」について分析していきます。

【小学校 算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国との差	無解答率(%)
5(1)	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる		○		76.8	-4.0	2.9
5(2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる		○		69.2	-4.1	6.8
5(3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる			○	37.7	-6.3	18.1
5(4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる		○		41.1	-8.2	5.6

問題 小学校5(3)

折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く。

この問題の趣旨は、「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」ことです。正答は、①3月の回数と4月

の回数の違いが最も大きい年代が2000年代であることを表す言葉、②2000年代の3月の回数と4月の回数の違いが6回であることを表す数、の2つの条件を記述する必要があります。正答例としては、「3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代で、2000年代の3月の回数と4月の回数の違いは6回です。」ですが、約18%の児童が無回答であり、正答率が約37%と最も正答率が低い問題となっています。①の「3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代であること」は2つの折れ線グラフの開き具合から見つけやすく、表現もしやすい。しかし、②の「3月の回数と4月の回数の違いが6回であることを表す数」については、3月が8回、4月が2回であることから違いは6回であるが、②の回数を書かなかった児童が多く見られました。学習指導に当たっては、日常の生活の場面のデータをグラフに表し、グラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現することができるようにすることが大切であり、グラフのどの部分やどの数値を基に判断したのかを、他者に分かるように伝える活動等を行うことが大切です。

【中学校 数学】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国との差	無解答率(%)
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる		○		64.7	-8.4	4.7
7(1)	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる		○		62.8	-11.5	7.2
7(2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる			○	21.2	-4.7	33.3
7(3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる	○			44.6	-3.9	0.6

問題 中学校 7(1)

障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める。

この問題の趣旨は、「与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる」

このようなことから、学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成30年度までの、A問題【主として知識】、B問題【主として活用】を問う設問構成から、これらの区別を見直し、知識・活用を一体的に問う形式へと平成31年度から変更されています。また、ストーリーが組み込まれている問題形式や、日常生活の場面と関連している内容や構成が主となっています。「知識」と「活用」はそれぞれ分かれて育成されるのではなく、知識を活用した学習を通して知識の定着や知識理解の深まりが図られると考えます。つまり、知識と活用が相互に関連し合いながら資質・能力が育成されていきます。学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能をいかに活用させて「生きて働く知識・技能」を培うかが求められています。

調査結果 小学校 国語

令和6年度 調査結果 小学校 [国語]

分類		区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
				平均正答率（％）	全国との差		
全体			14	62	-5.7	67	67.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	55.4	-9.0	62.3	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	85.3	-1.6	87.7	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	67.2	-7.4	73.3	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	58.1	-1.7	60.3	59.8
		B 書くこと	2	61.1	-7.3	68.3	68.4
		C 読むこと	3	67.2	-3.5	69.6	70.7

令和5年度 調査結果 小学校【国語】

分類			区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県（公立）	全国（公立）
					平均正答率	全国との差		
全体				14	63	−4.2	66.0	67.2
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	66.4	−4.8	70.1	71.2	
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	61.5	−1.9	64.3	63.4	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0					
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	68.1	−4.5	70.4	72.6	
		B 書くこと	1	22.2	−4.5	25.6	26.7	
		C 読むこと	3	65.5	−5.7	70.4	71.2	

※濃い黒い網掛けは全国平均正答率との差が10ポイント以上、薄い黒の網掛けは全国平均正答率との差が5ポイント以上(以下同様)

ことです。最頻値とは、データの中で、最も頻度が高い値（一番多く出現している値）のことであり、この問題では、20個の値のうち『1.9』が7個と一番多く出現しているため、正答は1.9となります。生徒の中には、最頻値の意味がわからず、最小値や最大値、中央値を答えた回答が見られました。学習の指導に当たっては、代表値の必要性和意味を理解し、目的に応じてデータを収集して分析し、データの傾向を読み取る活動において、データの代表値を求めることができるように指導していくことが大切になります。この問題においては、10cmの位置から進んで止まる距離の傾向について説明する場面を設定し、小学校で学習した内容を振り返り、最頻値の意味について再度確認を行うことで、最頻値を求める思考の定着が図られると考えられます。

◇ 非認知能力と学力との関係性について

計算力や語学力といった学力テストなどで測れる能力のことを「認知能力」と呼ぶ一方、コミュニケーション力や意欲、忍耐力など、数値での測定が難しい能力のことを「非認知能力」と呼びます。OECD（経済協力開発機構）によると、「非認知能力」は社会情動的スキルであると位置づけられ、『目標の達成（忍耐力・自己抑制・目標への情熱）』『他者との協働（社交性・敬意・思いやり）』『情動の制御（自尊心・楽観性・自信）』の3つの要素を軸としています。

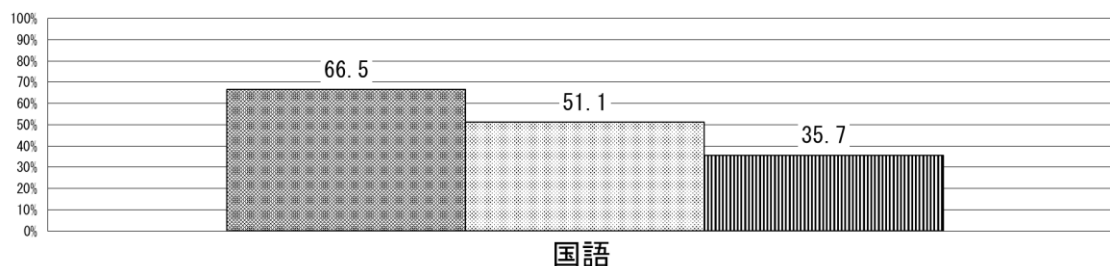
「非認知能力」の一つ、目標の達成（やり抜く力）との関係性については、【児童・生徒質問紙（国1、算1）「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」「今回の算数（数学）の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く（説明する）問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」】から、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童・生徒は、解答を書くことを途中であきらめたりした児童・生徒と比べ、国語と算数・数学ともに、約10%以上平均正答率が高い結果が見られました。自分の目標を目指してやり抜く力は、学習評価の観点になっている「主体的に取り組む態度」の2つの側面のうちの一つ、粘り強く取り組もうとする側面であり、児童・生徒が主体的な学びの過程に向かっているかという内面に着目し、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度として現れます。

【小学校児童質問紙】

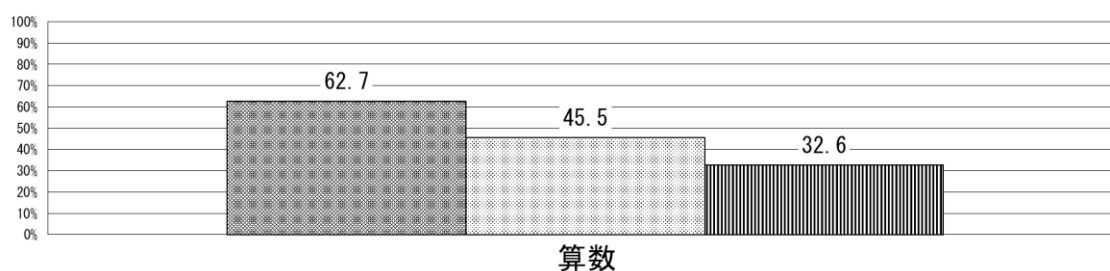
質問番号	質問事項
(国1)	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語 (14問)	算数 (16問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	312	76.3	66.5	62.7
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた	81	19.8	51.1	45.5
3	書く問題は全く解答しなかった	9	2.2	35.7	32.6
その他(選択肢以外の回答や複数回答(複数回答質問を除く)されたもの)		1	0.2	—	—
無回答		6	1.5	—	—
合計		409	100.0	62.3	58.1

- ☐ 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
☐ 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた
☐ 3. 書く問題は全く解答しなかった



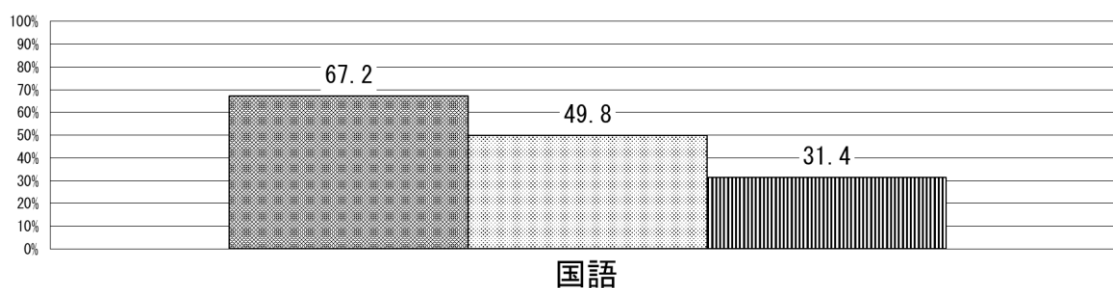
- ☐ 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
☐ 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた
☐ 3. 書く問題は全く解答しなかった



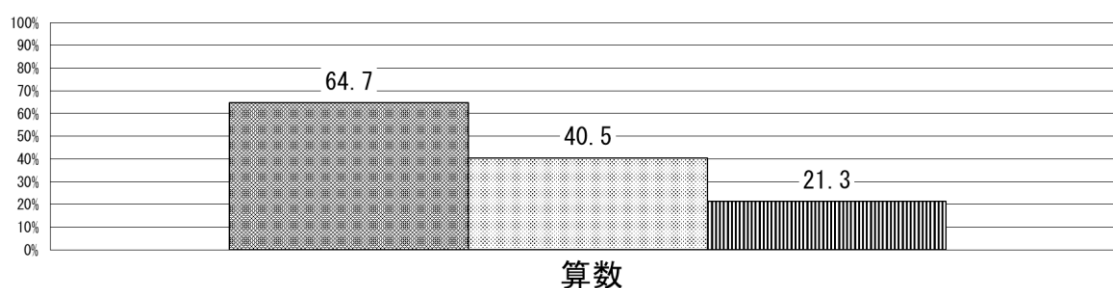
質問番号	質問事項
(算1)	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語 (14問)	算数 (16問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	303	74.1	67.2	64.7
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた	95	23.2	49.8	40.5
3	書く問題は全く解答しなかった	5	1.2	31.4	21.3
その他(選択肢以外の回答や複数回答(複数回答質問を除く)されたもの)		1	0.2	—	—
無回答		5	1.2	—	—
合計		409	100.0	62.3	58.1

- ☐ 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
☐ 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた
☐ 3. 書く問題は全く解答しなかった



- ☐ 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
☐ 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた
☐ 3. 書く問題は全く解答しなかった

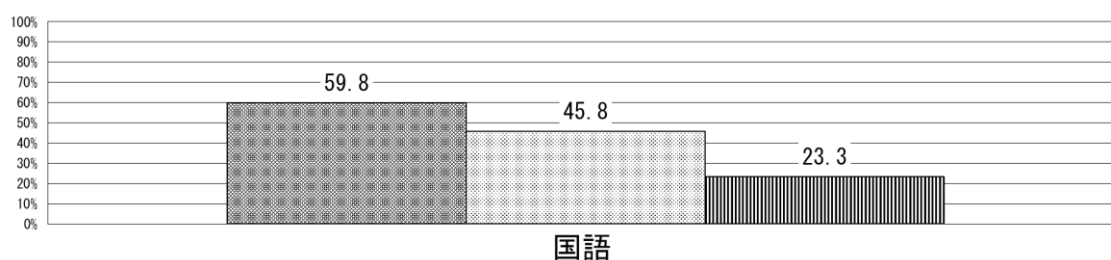


【中学校生徒質問紙】

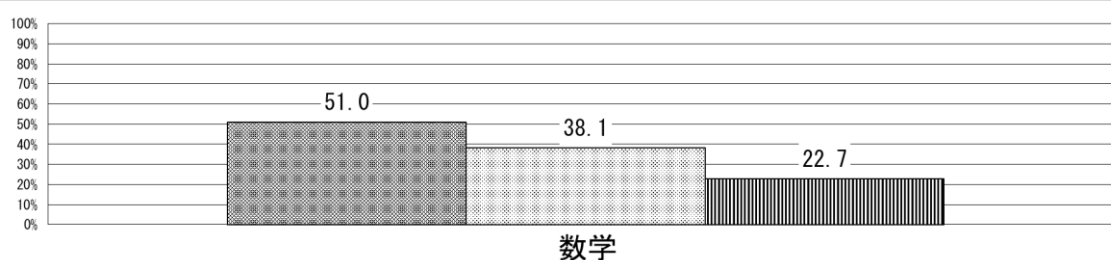
質問番号	質問事項
(国1)	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

選択肢		生徒数	生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)	
				国語 (15問)	数学 (16問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	282	77.5	59.8	51.0
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた	73	20.1	45.8	38.1
3	書く問題は全く解答しなかった	8	2.2	23.3	22.7
その他（選択肢以外の回答や複数回答（複数回答質問を除く）されたもの）		0	0.0	—	—
無回答		1	0.3	—	—
合計		364	100.0	56.1	47.7

- ☐ 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
☐ 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた
☐ 3. 書く問題は全く解答しなかった



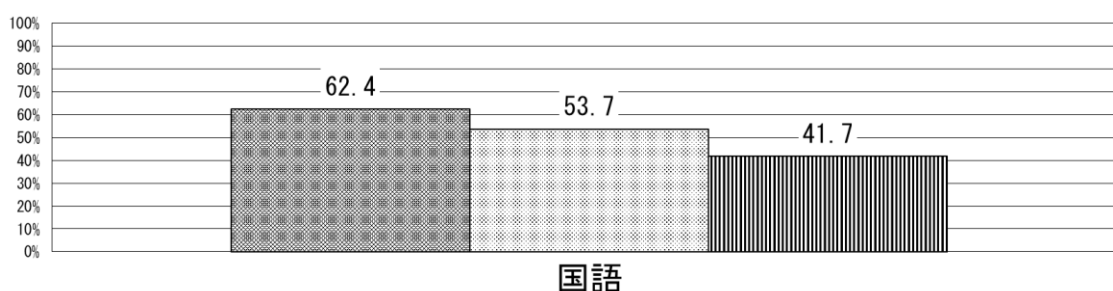
- ☐ 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
☐ 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた
☐ 3. 書く問題は全く解答しなかった



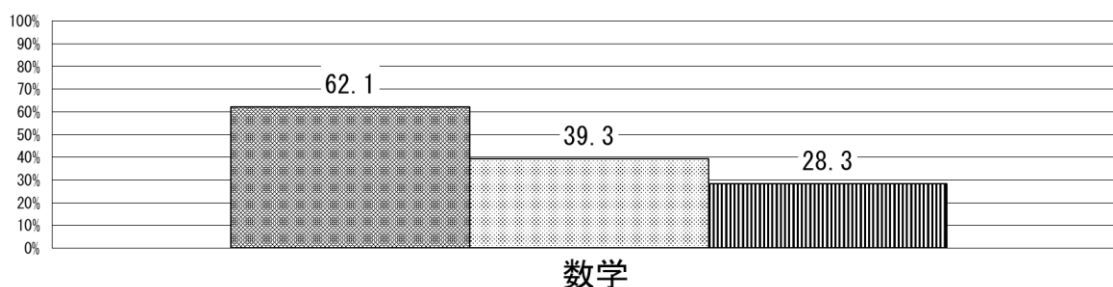
質問番号	質問事項
(数 1)	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

選択肢		生徒数	生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)	
				国語 (15問)	数学 (16問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	147	40.5	62.4	62.1
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた	188	51.8	53.7	39.3
3	書く問題は全く解答しなかった	28	7.7	41.7	28.3
その他（選択肢以外の回答や複数回答（複数回答質問を除く）されたもの）		0	0.0	—	—
無回答		0	0.0	—	—
合計		363	100.0	56.3	47.7

- ☐ 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
☐ 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた
☐ 3. 書く問題は全く解答しなかった



- ☐ 1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
☐ 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた
☐ 3. 書く問題は全く解答しなかった

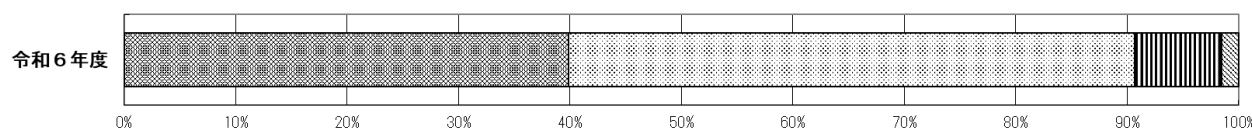


さらに「非認知能力」の一つ、他者との協働（他者とコミュニケーションできる力）との関係性については、【児童・生徒質問紙（３７）「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」】では、約９０％の児童・生徒がお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいることが伺えます。保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、さらに社会に出ても、さまざまな人と出会います。一緒に何かを作ったり、助け合ったりする機会もたくさんあります。そのような場面では、相手の気持ちを思いやりながら、行動することが求められます。また、自分の意見を求められる場合もあります。他者とコミュニケーションできる力は、今だけでなく、大人になってからも役立つ力になります。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項											
(３７)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	10	その他	無回答
令和６年度	39.9	50.9	7.8	1.5				90.8			0.0	0.0

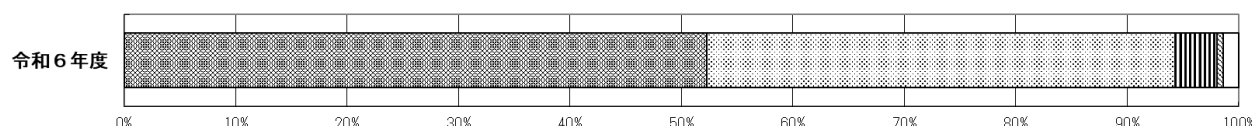
□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項											
(３７)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	10	その他	無回答
令和６年度	52.3	42.0	3.8	0.5				94.3			0.0	1.4

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



これまでの結果から、学校教育においても非認知能力を伸ばす取り組みが必要です。そのためには、児童・生徒の内発的意欲を尊重することが重要になります。児童・生徒のやりたい！という気持ちを尊重しながら活動させることが大切であり、一方通行の指導ではなく、児童・生徒の一人ひとりが興味をもち、主体的に取り組めるような活動やしかけが求められます。

また、考える習慣を身に付けさせ、児童・生徒の想像力を養わせる必要があります。児童・生徒が自分で思考をめぐらせたり推測したりすることで、想像力は伸びていきます。児童・生徒の「なぜ？」に対して、すぐに答えを与えず、学級全体で考えるなど、友達や周りの人の考えを大切にし、お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことができるような授業の組み立てが重要です。

さらに、結果だけではなく努力の過程を褒める（認める）ことで、児童・生徒は自己効力感や自信が高まります。先生が一人ひとりの児童・生徒に自信を持たせる言葉かけを継続的に行い、子供が挑戦したときに、結果だけでなく過程を振り返らせたり認めたりして、次につなげる意識を持たせることが大切です。